

NEWSLETTER

May. 2024 NO.71

発行：特定非営利活動法人リカバリー
〒065-0033
札幌市東区北33条東15丁目1-1
エクセレムビル4F
電話(011)374-6014 FAX(011)374-6041
e-mail recovery@phoenix-c.or.jp
HP <https://npo-recovery.org>



「新しいCafé Soleilは6月17日オープン予定です」

特定非営利活動法人リカバリー
代表 大嶋 栄子

5月に入りました。札幌は桜が散り始めています。一気に夏日のような暑さかと思ったら、翌日はコートにしっかりとストールをぐるぐる巻きにしないといけないくらい寒い。この寒暖差にちょっと体調を崩しがちです。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

さて、カフェの移転工事がいよいよ始まりました。残念ながら応募していた改築資金の助成は採択されず(汗)、また建築会社からの見積もり金額は当初の2倍に跳ね上がるという現実を前に、本当に工事を開始できるか胃の痛い日々でしたが、なんとか進めることが出来ました。このたびご協力いただいた方々に心よりお礼を申し上げます。しかしながら600万円を超える返済はこれからです。このたび法人HPのECサイト内に「Cafe Soleil 移転寄付」のページを立ち上げておりますので、みなさま、どうぞ応援のほどよろしく願いいたします。

4/22から移転の準備で厨房が使えず、スタッフとメンバーへの昼食提供が出来なくなりました。4/30-5/31まではなんとかグループホームの台所を使い、畑メンバー&スタッフのお弁当を作ります。今年も4/8から、ファームの仕事が始まりましたが、体力を使うはたけ仕事に頑張ってくれるメンバー&スタッフにとってお昼ご飯は何より楽しみですので、なんとかこの1ヶ月を凌いで行こうと思います。それにしても、今まで当たり前美味しいお昼ご飯を届けてもらっていたことは、ものすごく大切で、そしてありがたいことだったと気付かされます。加えて物価高騰、特に食品の値上げ幅が大きいので、見ているとメンバーたちは安価なものしか買えず、野菜や果物がほとんど摂取できない様子がわかります。この1ヶ月で体調を崩さない様に、様子を見ていきたいと思います。

現在のカフェを退去するにあたって、メンバー総出で箱詰めや掃除などを頑張りました。片付けを進めながらいろいろな出来事を思い返す毎日でした。移転工事はGW明けから本格的に始まりますが、新しいカフェは、地域みなさんにいろいろな催物で利用していただくことを目指しています。また、これまで法人がお世話になってきた団体などの皆様に、各種研修やレセプションの場として使っていただけたらと思っています。まずはオープン致しましたら、賛助会員のみなさま、関係機関のみなさまへ遊びに来ていただくことを楽しみにお待ちしております。これでようやくHPに掲げた「集う」のページを具体的に書き込んでいくことが出来そうです。さて、新しいCafe Soleilの窓から、今度はどんな風景を見ることができのでしょうか。私たち全員で、とても楽しみにしています。

新しいスタッフが着任しました

このたび、法人は2名の常勤スタッフを採用いたしました。一人はトラヴァイク(就労継続支援B型)、一人はリカバリーハウス(共同生活援助)に配属となりました。まだまだ自分の仕事に慣れるのに精一杯の二人ですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。二人からみなさまに一言ご挨拶を申し上げます。

「スタッフらしからぬスタッフでいたい」

by まるこ

この度4月からそれいゆの常勤スタッフとして働かせていただくこととなりました。ニックネームまることいいます。アルコール依存症のピアスタッフで、それいゆの卒業生でもあります。20年前、当時菊水にあったグループホームの部屋の中で、底行き体験をし、そこから飲まない生活が始まりました。

何故、今ここにきてそれいゆで働こうと思ったのか？正直、わかりません(笑) 熟考したつもりでしたが、なんとなくその場の勢いみたいなところも否めません。が、自分がそれいゆで何が出来るのか？という事については、本当に考えました。考えに考えて、出た結論が何も出来ないという事でした。ただ、自分がそれいゆを通過して得たもの、飲まないアル中として生きてきた経験を伝えることは、出来るかもしれないと思いました。

自分が繋がった当時とは、アディクションを持つ人に対するアプローチの仕方もアディクションそのもの随分と変わってきたように思います。様々な障害が絡み合い、より生づらい社会になっているようにも思います。

20年前、私は生きることも死ぬことも出来ない、まさにどうしようもない状態でした。自分が自分の人生を生きたいとは思わずに、自分が生きていることにいつも罪悪感を持っていました。何も信じられず、誰にも心を開かず自分の殻に閉じこもっていたと思います。

いつも寂しくて虚しくて、でもそんなことは誰にも言えなくて、お酒だけが自分を満たしてくれていました。当時のGHでは、自助グループに行くことが、ほぼ義務付けられていたので、嫌々ながら仕方がないから行きました。そこで話されていたことは、自分に正直にだとか、仲間のおかけだとか、感謝だとか。「必要な時に必要なものが与えられる」誰かが言っていました。アホかと思っていました。そんなことあるわけないじゃんと思って、本当に居心地の悪い場所でした。でも、自分が飲まないで生きたいと思い、助けを求めて行ったとき、そこは私の居場所になりました。

「必要な時に必要なものが与えられる」その後、「もしあなたが本当にそれを欲しいと思えば、望むならば」と続くこの言葉を聞いていませんでした。

自分自身に向き合って、自分がどうなりたいたのか、どう生きたいのか。常に自分自身に問い続けて、そして行動する。自分がこんな風になるとは思っていませんでした。止めはじめの頃、自分の問題を見るのが辛くてしんどくて、スタッフに泣きながら電話して、自助グループのミーティングで飲まないでいられれば何もいらないうって、わんわん泣いた夜。朝、自分の部屋の、まだカーテンも付けれ

ない部屋の擦りガラスの窓に射した太陽の光を、私はずっと覚えています。朝が来たことが嬉しいと思ったことは初めてでした。

生きていてよかった。そう思える瞬間をみんなと過ごしていければいいな。

「それいゆまつり参加が会いました」

by 行方眞澄

みなさまはじめまして。行方眞澄(なめかたますみ)と申します。昨年3月のそれいゆまつりに初めてお邪魔したことからご縁をいただき、4月からグループホームの食事提供ボランティアとしてお世話になり、その後法人事務所にて厚労省研修事業の業務等にも携わらせていただきました。新年度からは、トラヴァイクそれいゆのスタッフの一員として、新たにお任せいただいた業務に右往左往しながら奮闘する毎日を過ごしています。

このたび、ニュースレターの初寄稿ということで、自己紹介を兼ねてすこし私の趣味の話をしたいと思います。私は飛行機と風景をからめた写真撮影が好きで、時間を見つけては新千歳空港、少し足を延ばして旭川空港、年に2回程は関東圏の空港にも出向き、大好きな飛行機を眺めながら撮影を楽しんでいます。思えば飛行機に魅せられたきっかけは、幼少期、日曜の朝にブラウン管から流れていた

「兼高かおる世界の旅」のオープニング映像だったと記憶しています(年齢がばれますね笑)。パンアメリカン航空機がダイナミックにテイクオフする映像に釘づけになり、子ども心ながら遠い世界の国々に想いを馳せ、大きな鉄の塊が飛び上がり雲に吸い込まれていく情景にドキドキわくわくしたのを覚えています。

飛行機撮影に臨むとき、気にかけることの1つに風向きがあります。「この風景とからめて撮りたいな」とカメラを構えても、風向きによってランウエイチェンジをすることは日常茶飯事です。基本、飛行機は翼に風を受けて(向かい風で)飛びます。そのほうが翼はより揚力を得られて、短い距離の滑走で安全に離着陸することができるそうです。

それいゆはいろいろな人が集い、毎日何かしらいろいろな出来事が起こります。風向きに身をまかせつつ、時には向かい風でも「いまは力をたくわえている時なのだ～」

「安全な着地のため、それもまたよし」と楽観的に捉えて、いろいろな事にトライして前に進んでみたいと思っている今日この頃です。みなさま、これからどうぞよろしくお願いいたします。



それいゆまつり2024

2024年6月15日(土)

午前10時～午後4時

会場：札幌市東区北33条東15丁目1-1

エクセレムビル4階 (地下鉄東豊線「新道東駅」下車)

今年で21回目を迎える「それいゆまつり」ですが、今年はカフェの移転工事を控えていたため、3/20春分の日開催を延期しておりました。このたび、新しいカフェのお披露目を兼ねまして、終日対面で開催いたします。賛助会員のみなさま、また日頃よりお世話になっております関係機関の方々にはコーヒーチケットをお送りさせていただきました。チケットは1年間有効としております。今回の来訪は難しくても、Cafe Soleil ではいつでも皆様のお越しをお待ちしています。

さて今回の「それいゆまつり」では、午前中はカフェの見学や「トラヴァイユそれいゆ」で制作した商品の販売をおこないます。そして、午後からオンライン対談を行います(この部分のみ有料となっておりますので当日受付にてお支払いください)。お話をしていただくのは“文学紹介者”の頭木弘樹さんです。『絶望名言』をはじめ多くの著作があり、カフカの論評や脚本家の山田太一さんへの聞き取りなどでも広くその活躍が知られている方です。6月は札幌も一番気候の良い過ごしやすい時期となります。どうぞみなさま、お誘い合わせのうえ、新しくエクセレムビルの2階に移転しましたカフェを見にいらしてください。

10:00- 開場 作品販売とカフェの見学

11:30-13:00 ランチタイム *当日のランチ880円は予約制としております。あらかじめお申し込みください。

13:30-15:00 オンライン対談「絶望の言葉が救いになる??」

頭木 弘樹さん(文学紹介者) × 大嶋 栄子(NPO法人リカバリー)

15:00-16:00 カフェタイム&作品販売

*ランチお申し込み&お問い合わせ

NPO法人リカバリー(011)374-6014

担当：行方(なめかた)・長谷川



Cafe はいつもみんなの笑顔が溢れる場所 その2: 住宅街でCafe を始める



2014年春、法人はそれまでの通所施設を就労継続支援事業へと転換することに決めました。その申請を札幌市へ提出したところ、それまで地域活動支援センター&カフェとして使っていたビルに不具合が見つかり、ここでは事業を継続することが出来ないと通告されたのです。まさかの出来事でした。そこから大急ぎで部屋探しが始まります。

移転先については、理事から紹介された不動産会社をお願いし、地下鉄駅から徒歩10分圏内であることとカフェを併設できることを条件として提示し探してもらいました。しかし就労継続支援事業を実施するスペースのほかにカフェとなると、なかなか物件は見つかりません。また障害福祉サービス事業ということで、どのような利用者さんが使うのかと、ビルのオーナーによっては懸念を示す場合も少なくありません。そうこうしているうちに、月日は過ぎるばかり。

そんなときに、現在のエクセレムビルと出会います。地下鉄東豊線「新道東駅」から徒歩5分くらいにあるビルでした。幸いオーナーは私たちの事業に関心を示してくださいましたが、4階部分ということから防火設備の関係では多くの工事が必要となりました。このとき財政的には大変でしたが、賛助会員をはじめ多くの人たちの寄付に支えられて2014年5月に引越し。広々とした明るいオフィス、活動スペース、そして休憩コーナーと雰囲気は申し分ありません。また隣に元町イオンがあり、買い物にも便利でした。

一方、カフェはなかなか移転先が見つかりません。また、ビルのワンフロアを借りた他にカフェの家賃を支払うのは困難でした。仕方なく、見込みのないままカフェを一旦閉めることになりました。地域活動支援センターをとりあえず東区へ移転させ、その後就労継続支援事業として認可を受けましたが、中央区のビルに置いてきたカフェのことがずっと気がかりでした。

ところでエクセレムビルの防火工事や内装を手がけてくれたのはカフェの施工会社さんだったのですが、ある日「大嶋さん、その後カフェの場所は見つかりましたか」と声をかけてくれました。まだ見通しが立たないことを話すと、実は自分たちの会社はこのすぐ近くで、1階のショールームは滅多に使わず空いているから、カフェとしてやってみてはどうかというのです。しかも当面は無償でよいと(社長さんとその後すぐにお目にかかり確認)。驚きました。最初のカフェをデザインしてくれたデザイナーさん、そして施工会社さんが再びタッグを組んで2件目となるCafe Soleilを作ってくれました。今度のカフェは住宅街のなかにあります。最寄り駅は同じ「新道東駅」ですが、こちらは徒歩10分はかかります。たった5分ほどの距離ではありますが、エクセレムビルの事業所との一体感や、相互間の移動など課題もわかったうえでの決断でした。こうして、エクセレムビルに移設した就労継続支援事業所の“従たる事業所”として、2つ目のCafe Soleilは2014年10月、スタートしたのです。

